

Title	小特集：経済学会ミニコンファレンス 東アジア共同体とヨーロッパ共同体の比較研究
Sub Title	序 Preface
Author	松村, 高夫(Matsumura, Takao)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2007
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.99, No.4 (2007. 1) ,p.779(173)- 781(175)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小特集：東アジア共同体とヨーロッパ共同体の比較研究
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20070101-0173">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20070101-0173</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 小特集：経済学会ミニコンファレンス 東アジア共同体とヨーロッパ共同体の比較研究

近年、靖国問題、教科書問題、戦後補償問題、領土問題等を通して、近隣諸国家では「反日」の機運が高まっている。中国や韓国の主張と日本の主張との間の捩れはどこに起因するのか。どこまで共通の歴史認識をもつことが可能なのか。そうした素朴な問いを発しても、情報の洪水の中でステレオタイプの回答しか得られないもどかしさを多くの人が経験しているのではないだろうか。

一方、奇妙なことに、こうした中で、日本国内では「東アジア共同体」を模索する動きが急速に展開している。近年東アジア内で相互の経済依存度が高まっているとはいえ、それは「東アジア共同体」へと向かう回路を保障するものではない。さらに、政治的、経済的、文化的に多様な東アジアで、EU をモデルに単純に共同体を構想できるはずもない。私たちが東アジアの友好や連帯を模索するとしたら、まず行うべきことは、東アジアをめぐる日本の思想と歴史の徹底した検証ではないだろうか。言わば「反日」の根源を剔抉する学問的検証である。

明治以降、日本は、東アジアとどのような関係性をもちながら近代国家として成長していったのか。「近代日本」の代表的なイデオログ、福沢諭吉の「文明」や「脱亜」の概念は、どのような思想的葛藤の上に成り立っているのだろうか。そこには、「アジア」との関係という視点から、問い直すべき問題はないのだろうか。さらには、十五年戦争における「アジア解放」を標榜する思想と行動は、どのように全体として把握しうるのだろうか。そうした真摯な批判的検証を回避して東アジアの友好や連帯を唱えても、近隣諸国に受け入れられるはずもない。歴史認識の共有化は、日本の未来のための基礎的な作業なのである。

近年議論されている「東アジア共同体」は、どの国が主導権を握るのかという政治的覇権主義が刻印されているという印象、あるいは経済的利害のみを求める「野合」という印象を免れない。私たちは、東アジアの歴史認識共有化という試みを通して、東アジアが共有しうる積極的な価値観を求め、それを「東アジア・スタンダード」と名づけた。それが、アメリカ主導の「グローバル・スタンダード」に対抗する意味を含んでいるのはもちろんのことであるが、しかし、だからと言って固定的な「スタンダード」の確立を求めているのではない。世界と人類に向けて発信しうる「スタンダード」であると同時に、歴史の動きに呼応してつねに柔軟で可変的な「スタンダード」が模索されている。以上のような問題意識から、本コンファレンスは以下のように開催された。

会場：

慶應義塾大学三田キャンパス東館8階会議室

日程：

6月2日（金）

午後4時30分～午後6時 松村高夫「池明観の思想と行動」

午後6時30分～午後9時 懇親会（都ホテル東京「四川」）

6月3日（土）

午前10時～11時30分 高草木光一「サン＝シモンの『ヨーロッパ』概念」

午後1時～2時30分 歩平「華夷秩序と東アジア共同体」

午後2時30分～4時 池明観「韓国民主化運動と東アジアの連帯」

午後4時～6時 総括討論

出席者：

松村 高夫	慶應義塾大学経済学部教授
高草木 光一	慶應義塾大学経済学部教授
歩 平	中国社会科学院近代史研究所所長
池 明観	元東京女子大学教授、元韓国翰林大学校翰林科学院日本研究所長

（以上報告者：報告順）

阿部 知子	衆議院議員
飯田 裕康	慶應義塾大学名誉教授
内田 弘	専修大学経済学部教授
江田 いづみ	慶應義塾大学経済学部非常勤講師
江田 憲治	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
大村 次郷	フォトジャーナリスト
尾羽沢 信一	フォアサイトリサーチラボ代表
小川 和久	軍事アナリスト
加藤 紘一	衆議院議員
加藤 哲郎	一橋大学大学院社会学研究科教授
金子 勝	慶應義塾大学経済学部教授
子安 宣邦	大阪大学名誉教授
鳧 信彦	ジャーナリスト

鈴木 邦男 一水会顧問  
田中 明 慶應義塾大学名誉教授  
吉原 順平 映像・展示プランナー  
渡辺 春己 弁護士

(50 音順)

松 村 高 夫  
(経済学部教授)